

図書館概論

2 単位(30 時間)

下山 佳那子

【科目の概要】

社会における図書館の意義について理解を図り、図書館の現状、機能、歴史、種類、利用者、職員、類縁機関との関係、今後の課題について解説する。司書科目の出発点として、図書館についての最も基礎的な内容を取り上げ、各科目で学習する内容へのつながりや方向付けを示す。

【ねらいと到達目標】

○ねらい

・図書館の役割と価値を理解する

図書館が社会において果たす役割や、その存在意義について学び、利用者のニーズに応じたサービスの重要性を理解することを目指す。

・図書館業務の基礎知識を習得する

図書館における資料の収集、整理、保存、提供といった基礎的な業務について理解を深めることで、図書館がどのように情報を提供しているかを学ぶ。

○到達目標

到達目標は以下の 3 点である。

1. 図書館の定義、基本理念、機能、種類および司書の役割や専門性について、概要を説明することができる。

2. 生涯学習と図書館、図書館の歴史、出版との関わり、図書館の自由、公立図書館の経営・制度(法律、行政組織の仕組み、連携協力など)、公立図書館以外の各種図書館について、概要を説明することができる。

3. 公立図書館の役割、あるべき姿、今後の課題などについて、自身の言葉で説明することができる。

【講義計画】

1. 図書館の定義と役割

2. 図書館の自由と倫理綱領

3. 図書館の種類と機能 1(国立国会図書館・公立図書館・大学図書館)

4. 図書館の種類と機能 2(専門図書館・学校図書館)、日本における図書館の現状

5. 諸外国における図書館

6. 図書館協力

7. 図書館資料

8. 図書館サービス

9. 図書館の歴史(世界編)

10. 図書館の歴史(日本編)

11. 近年の図書館の動向(場としての図書館、コンピュータの発達と図書館)

12. 図書館サービスと著作権制度

13. 図書館の経営と組織、司書の養成教育

14. 図書館情報学と周辺的な学問領域、図書館の類縁機関・関連団体

15. 図書館の課題と展望、まとめ

【テキスト】

・国際交流基金関西国際センター『図書館のしごと:よりよい利用をサポートするために(第 2 版)』(読書工房, 2021)

【参考文献】

・高山正也, 岸田和明編著『図書館概論』(樹村房, 2017)

・塩見昇編著『図書館概論』(日本図書館協会, 2019)

・上田修一・倉田敬子編著『図書館情報学』(勁草書房, 2017)

生涯学習概論

2 単位(30 時間)

尾谷 雅彦

【講義概要】

生涯学習という用語が氾濫しています。しかし、はっきりとした定義がありませんから多義的につかわれ、ファジーなとらえかたをされています。さらに先行していた社会教育との関係も明確には示されていません。このような状況で、行政の中では、生涯学習が法的定義もないままつぎつぎと施策が行われています。

生涯学習・社会教育の牽引役を担わなければならない図書館司書として、生涯学習と社会教育をともに学習しましょう。講義は適時配布するレジメで行います。

【ねらい・到達目標】

- (1)生涯学習及び社会教育の本質と意義を理解し適切に説明できる。
- (2)生涯学習・社会教育に関する歴史過程を理解し歴史的意義を理解し説明できる。
- (3)生涯学習・社会教育に関する制度や行政、施策について理解し説明でき。
- (4)生涯学習社会の実現に向けての生涯学習・社会教育・学校教育の関係について理解する。
- (5)社会教育における学習プログラムの編成とその実施方法について理解、実践できる。
- (6)各種の社会教育施設や社会教育専門職員の概要とその役割と取り組みについて理解し、評価することができる。

【講義計画】

1. 生涯学習とは何か
2. 生涯学習と社会教育
3. 生涯学習関連施策
4. 社会教育の意義と歴史
5. 社会教育の内容・方法・形態
6. 社会教育指導者について
7. 社会教育施設について
8. 学習情報提供と学習相談

【テキスト】

テキストは使用しません。

必要な資料は配布します。

【参考文献】

- ・今西幸蔵編著『生涯学習入門』法律文化社 2011
- ・赤尾勝己著『新しい生涯学習概論』ミネルヴァ出版 2012
- ・山本恒夫編著『生涯学習支援の道具箱』一般財団法人 社会通信教育協会 2019

情報サービス論

2 単位(30 時間)

坂本 俊

【ねらいと到達目標】

【ねらい】

- 1) 図書館における各種情報サービスに関する理解を深める。
- 2) 各種レファレンスツールの特徴を理解し、利用者ニーズに合致する適切な情報・資料の提供をおこなえるような能力を養う。

【到達目標】

- (1) 図書館における情報サービスの基本的なサービス概要に関して理解する。
- (2) レファレンスブック・データベース等の各種情報資源の特性・特徴について理解を深める。
- (3) ネットワーク情報資源を用いた情報提供の方法とあり方について明確に説明できる。

【講義概要】

図書館における情報サービスの意義を明らかにするとともに、主にレファレンスサービス等で使用されるレファレンスブック、データベース等のレファレンスツールに関して解説していく。

また、ネットワーク情報資源を活用した情報探索・検索方法の習得を目指し、情報リテラシーを含む図書館利用者教育についても理解を深めていく。

【講義計画】

1. 図書館を取り巻く環境と情報サービス
2. 情報サービスの意義と種類(1):レファレンスサービス
3. 情報サービスの意義と種類(2):レフェラルサービス、カレントアウェアネスサービス
4. レファレンスサービスの理論と実践(1):レファレンスプロセス
5. レファレンスサービスの理論と実践(2):レファレンスインタビュー
6. 情報検索サービスの理論と方法(1):書誌情報検索・文献検索
7. 情報検索サービスの理論と方法(2):事実検索
8. レファレンス事例の分析(1):即答質問の受付と処理
9. レファレンス事例の分析(2):探索質問の受付と処理
10. 各種情報源の評価と解説
11. 図書館における情報資源の組織化
12. 発信型情報サービスの意義と方法
13. 情報サービスにかかわる知的財産権
14. 図書館利用者教育と情報リテラシー能力の育成
15. まとめ・試験

【テキスト】

竹之内禎編著・情報サービス論 第2版(バースック司書講座・図書館の基礎と展望4)出版社名:学文社(2024年)
ISBN:9784762033186

図書館情報資源概論

2 単位(30 時間)

加藤 靖子

【講義概要:ねらい、到達目標】

印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源からなる図書館情報資源の基本について学ぶ。類型と特質、歴史、生産、流通、選択、収集、保存、図書館業務に必要な情報資源に関する知識等の基本を解説する。伝統的な図書館資料ならびに「ネットワーク情報資源」など、単に紙の媒体にとどまらず、近年多様化する図書館情報資源全般について、理解を深めることを到達目標とする。

【講義計画】

1. 図書館情報資源とは何か
2. 図書館の歴史および特性と構造
3. 図書館以外の印刷資料
4. 非印刷資料の種類と特徴
5. 資料特論(灰色文献、政府刊行物、地域資料等)
6. 電子資料
7. ネットワーク情報資源
8. 出版流通と図書館
9. 図書館の「知的自由」
10. 蔵書論
11. 収集と選択
12. 蔵書管理
13. 資料の組織化
14. 書庫管理
15. まとめ

【テキスト】

・馬場俊明編著『図書館情報資源概論』三訂版(JLA 図書館情報学テキストシリーズⅢ-8)日本図書館協会 2023
ISBN 978-4-8204-2309-6

【参考文献】

- ・岸田和明編著『図書館情報資源概論』(現代図書館情報学シリーズ8)樹村房 2020
- ・藤原是明編著『図書館情報資源概論』(講座図書館情報学 9)ミネルヴァ書房 2018
- ・宮沢厚雄著『図書館情報資源概論』新訂第4版 理想社 2018
- ・吉井潤著『事例で学ぶ図書館情報資源概論』青弓社 2023

情報資源組織論

2 単位(30 時間)

園田 俊介

【ねらいと到達目標】

印刷資料・非印刷資料・電子資料・ネットワーク情報資源からなる図書館情報資源の組織化(記述目録法, 分類法, 件名法)を理解し、それらの基本的事項について説明できることを目標とする。

【講義概要】

図書館における情報資源(印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源)組織化の理論として、書誌コントロールが行われるための技術を示す。それは書誌記述法、主題検索等である。図書館における、情報資源の組織化と検索について学ぶ。

【講義計画】

1. 情報資源組織論とは
2. 目録の役割
3. 目録の種類
4. 目録記入の構成
5. 書誌コントロール
6. OPAC の管理と運用
7. タイトルや著者からの検索
8. 主題検索: 件名目録、分類目録
9. 書架分類(分順順配架)
10. 目録・書誌の基準とその歴史①
11. 目録・書誌の基準とその歴史②
12. ネットワーク情報資源とメタデータ①
13. ネットワーク情報資源とメタデータ②
14. 多様な情報資源組織
15. 全体のまとめ

【テキスト】

・不要(適宜資料を配布)

【参考文献】

志保田務・高鷲忠美(編著)

『情報資源組織法 第3版』第一法規 2021

情報資源組織演習(目録)

2単位(30時間)

園田 俊介

【ねらいと到達目標】

「情報資源組織論」で学んだ理論や知識をもとに、「日本目録規則」に基づく書誌的記録を作成できるよう、情報資源組織化の実践的な知識・技術を習得する。

【講義概要】

「情報資源組織論」で学んだ内容をふまえて、目録作業の実際について演習形式で学ぶ。最初に「日本目録規則」について各種規則や方法の解説を行い、公判ではそれらを適用した書誌的記録の作成を行う。

【講義計画】

1. NCRの構成及び使い方
2. 書誌コントロールの実際
3. 記述の作成
 - 1)和資料の情報源と演習
 - A タイトルと責任表示
 - B 版表示
 - C 出版事項
 - D 対象事項
 - E シリーズ
 - F 継続資料
 - G その他の資料
 - H 書誌レベル
 - I 典拠ファイル
 - 2)洋資料の情報源と演習
4. アクセス・ポイント(標目指示)の演習
 - 1)和資料のアクセス・ポイント(標目指示)
 - 2)著者名典拠コントロール
 - 3)洋資料のアクセス・ポイント(標目指示)

成績評価は、出席態度、提出物、試験等により、総合的に行う。

【テキスト】

・志保田務・高鷲忠美編著
『情報資源組織法演習問題集』第3版 第一法規
2021

児童サービス論

2 単位(30 時間)

杉岡 和弘

【ねらいと到達目標】

授業のねらいは、図書館における児童を対象とする各種のサービス、児童室の運営、児童図書館、児童図書等について総合的に学習します。

- 1) 児童室サービスの意義及びその企画・立案
- 2) 児童室の運営
- 3) 集会・展示サービス
- 4) 児童サービスの実際と技術(ストーリーテリング、読み聞かせ、ブックトーク等)
- 5) 児童図書の収集・整理, 利用上の留意点
- 6) 児童資料の特色と主要な資料の解説
- 7) ヤングアダルトサービスの意義及びその企画・立案等
- 8) 学校図書館等との連携・協力 到達目標は、
1.公共図書館の児童サービスの重要性を理解し、子どもの読書に対し良き理解者、支援者となること、2.チーム効力感を高め、積極的に人の意見を取り入れ、自分の意見を確立する児童図書館員となること、3.課題意識を持ち、問題解決できるスキルを身につけること、です。

【講義概要】

子どもの図書館にとって、1.子どもを知ること、2.子どもの本を知ること、3.子どもと本を結びつけること、が重要です。この3点を基軸に、子どもの読書、子どもの図書館、子どもの本を学習し、子どもの本を紹介する技術の習得を、ワークショップ形式で学んでいきます。

【講義計画】

- 第 1 回 授業オリエンテーション
授業の概要や課題、学習方法を説明する。自分の幼い時の読書体験、図書館利用を討議する。
- 第 2 回 子どもを知る
子どもの成長に応じた、読書の変化、子どもの情報行動について学習する。
- 第 3 回 子どもの図書館を知る
子どもの図書館が歩んできた過程を通して、児童サービスの重要性を学習する。
- 第 4 回 本を選ぶ(1)
選書の実際とその重要性を学ぶ。

第 5 回 子どもの本を知る(1)

就学前の子どもの本(わらべうた、なぞなぞ、昔話、絵本)を学びます。

第 6 回 子どもの本を知る(2)

学童期の子どもの本(少年詩、児童文学、科学読み物、ノンフィクション)を学びます。

第 7 回 本を選ぶ(2)

選書スリップを利用して、グループ討議を通して選書を学びます。

第 8 回 書評を書く

書評を書くことを通して、子どもの本を正しく捉え、批評することを学びます。

第 9 回 ブックリストを作る

子どものためのブックガイドの書き方を学び、ブックリストを作成する。

第 10 回 子どもの本を紹介する

公共図書館で行われている読み聞かせ、ストーリーテリング、ブックトークなど、子どもと本を結ぶ技術を学びます。

第 11 回 子どもの図書館を考える

図書館計画について学びます。レポート「図書館見学」をもとにグループ討議します。

第 12 回 子どもの図書館の運営

ヤングアダルト、特別なニーズを持つ子どもたちに対する図書館サービス、他機関の連携を学びます。

第 13 回 子ども読書活動推進計画を考える(1)

児童サービスを、政策として捉え、子どもの読書を推進していくための具体的な方法を考えます。

第 14 回 子ども読書活動推進計画を考える(2)

グループ討議を通して、地域の子どもの読書の課題をどう捉え、解決事例に学び、政策立案します。また、それらをまとめ発表する準備をします。

第 15 回 子ども読書活動推進計画の発表とおはなし会の実際

立案した子ども読書活動推進計画について、グループ発表します。また、実際に図書館で行われているおはなし会に参加し、子どもと本を結ぶ技術をどう組み立てていくか学びます。

【テキスト】

教科書は特に指定しません。必要な資料は講義中に配布します。

図書館情報技術論

2 単位(30 時間)

藤間 真

【ねらい、到達目標】

1. コンピュータとネットワークを中心に情報機器の基礎的知識を身に付ける。
2. 情報機器の図書館業務への応用についての基礎的知識を身に付ける。
3. 情報機器の社会的意義の基礎的知識を身に付ける。

【講義概要】

前世紀末以来、IT 化が進む日本社会において、公共図書館員に必要な情報通信技術の基礎を伝授するために、コンピュータ・ネットワーク等の基礎を講義した上で、図書館業務システム・データベース・検索エンジン・電子資料等への応用を扱う。

なお、受講生の状況等にあわせて、上記計画に微調整を加えることがあります。

【講義計画】

1. 情報技術活用の現状
2. コンピュータの基礎
3. ネットワークの基礎
4. データベースの基礎
5. 検索エンジンの基礎
6. システム管理とセキュリティの基礎
7. 中間まとめと将来の展望
8. 図書館における ICT 活用の基礎
9. 図書館業務システムの基礎
10. 電子資料管理の基礎
11. デジタル・アーカイブの基礎
12. 障害者支援のための ICT 活用の基礎
13. 最新の情報技術と図書館、情報技術と社会
14. 総まとめ

【テキスト】

・岡紀子・田中邦英 共著

『3訂 図書館と情報技術－情報技術者検定3級対応』

樹村房 2023

情報サービス演習

2 単位(60 時間)

藤間 真

【講義概要:ねらい、到達目標】

情報サービスとは、人々が求めるニーズに合わせて的確な情報を探索し回答を提供する図書館のサービスです。

この科目では、図書館の情報サービスについて、その具体的な手法を実際に体験することを通じて、サービスの基本を学ぶことを目指します。

演習形式の授業を中心として、冊子体の情報源であるレファレンスブックスの活用した情報の探索方法と、データベース等を用いて情報を検索する手法を習熟することを目的とします。

【科目概要】

1. 情報サービス、検索の過程
2. レファレンスツール(コレクション)
3. レファレンスブックスを使った情報の検索
4. 論理演算
5. インターネットを活用した情報の検索
6. 商用データベースの検索
7. Web を利用した情報サービスの実際
8. その他

なお、演習の内容・演習環境(実習室等の定員に合わせて、受講生をいくつかの班に分けて演習を行います。また、スケジュール上先行する他の科目の状況を受けて上記内容に微調整を加えることがあります。

【テキスト】

・野口武悟、千錫烈〔編著〕

『Web で学ぶ 情報検索の演習と解説〈情報サービス演習〉』日外アソシエーツ 2023

***本書付録のシリアルナンバーが使用済みになっている中古品は使用できません。新品をご用意ください。**

情報サービス演習（レファレンス演習）

篠塚 富士男

【講義概要:ねらい、到達目標】

図書館が行う情報サービスでは、レファレンスブックやデータベース類が中心的な情報源となる。本演習では、情報サービスを実施するにあたって基本となるレファレンスコレクションの整備、それらが対象とする主題や時代の範囲、検索方法等について学ぶ。

具体的には、情報サービスを提供するにあたって図書館員に必要とされるレファレンスブックの知識と、検索技術の習得を目標とする。また、個々の情報源の収録範囲や検索のために用意された仕組み等を理解した上でそれらを使いこなす情報収集力を身につけることを目指すとともに、演習課題を通じて問題解決力も身につける。

【講義計画】

1. 情報サービスの設計
2. 情報資源とレファレンスコレクションの整備
3. レファレンスコレクションの評価
4. レファレンスプロセス
5. レファレンスインタビューの技法と実際
6. 情報資源の特徴とそのアプローチ
7. レファレンスブック:紙媒体の情報資源
8. 質問分析と情報探索
9. 情報サービスの評価
10. 発信型情報サービス

【参考文献】

・原田智子編著『情報サービス演習』三訂版
(現代図書館情報学シリーズ7)樹村房 2021

・中山愛理編著『情報サービス演習』
(講座・図書館情報学 8)ミネルヴァ書房 2017

・斎藤文男・藤村せつ子著
『実践型レファレンス・サービス入門』補訂 2 版
(JLA 図書館実践シリーズ 1)日本図書館協会 2019

図書館サービス特論 I A

1 単位(15 時間)

藤間 真

【講義概要:ねらい、到達目標】

この科目では、図書館で実際に働いている先輩の口から、図書館で提供されている色々なサービスの現状と展望を聞きます。

そのことを通じて、本講習で学んだこと全体を、実際に現場で行われている創意工夫と整理・統合することを通じて理解を深めることを目指します。

理論を実践していく現場の知恵を聞くことにより、講習全体で学んだものを各受講生が自分なりに消化し、専門職としての司書の礎となるように自分自身のものとするのがこの講義の到達目標です。

なお、講義計画執筆段階で講師のスケジュール調整が終わってないため、下記に示すものはあくまで予定です。

【科目概要】

- 1 図書館サービスの概要の復習
- 2 図書館サービスの現状:国立国会図書館の事例より
- 3 図書館サービスの現状:公共図書館の事例より
- 4 図書館サービスの現状:学校図書館の事例より
- 5 図書館サービスの現状:図書館専門企業の事例より
- 6 図書館サービスの現状:デジタルサービスの事例より
- 7 図書館サービスの現状:大学図書館の事例より

【テキスト】

指定しません。

【参考文献】

指定しません。

図書館基礎特論

1 単位(15 時間)

岡本 真

【ねらいと到達目標】

自治体の根幹的な政策の展開を調査・理解したうえで公共図書館の運営計画を具体的・実践的に立案できるようになることを目指します。本科目を修了することで、自治体政策の基本的な調査を遂行できる基礎知識の習得と、その知識に基づいて政策を理解できるようになることを図ります。

【講義概要】

公共図書館の経営・運営にあたっては、上位組織である自治体の政策を深く理解することが欠かせません。しかし、多くの自治体・図書館でこの点をないがしろにした公共図書館の経営・運営が行われています。このズレが公共図書館の危機を招いています。

この認識に立ち、本講座では実際の自治体の取り組みを自ら調査・分析し、図書館政策の実際がリアリティーをもって学びます。

【講義計画】

1. 図書館政策論(1)－個別的政策の理解
2. 図書館行政の政策過程論
3. 図書館サービス計画の調査
4. 図書館サービス計画の分析
5. 図書館政策論(2)－総合的政策理解
6. 自治体総合計画等の調査
7. 自治体総合計画等の分析
8. 図書館政策論(3)－政策としての図書館

なお、この講義ではパソコン等を使った情報検索や資料作成が必須となります。講義期間、ノートパソコンやタブレットを持参して受講することが強く望まれます。

【テキスト】

岡本真著『未来の図書館、はじめます』(青弓社、2018年)

岡本真、森旭彦著『未来の図書館、はじめませんか?』(青弓社、2014年)

※ただし、副読本としての位置づけです。

【参考文献】

『ライブラリー・リソース・ガイド』(LRG)(アカデミック・リソース・ガイド)

情報資源組織演習(分類)

2 単位(30 時間)

柳 勝文

【ねらいと到達目標】

本演習では、『日本十進分類法』(NDC),『基本件名標目表』(BSH)という2つのルールブックを使用した情報資源組織化の方法を習得することを目指し,図書館の実際の資料を対象に,情報資源の主題分析と記号化,統制語彙の適用,等の演習を行います。

到達目標は、『日本十進分類法』(NDC)を用いて,基本的な分類記号を付与することができることです。

【講義概要】

情報資源組織概説(分類)で学んだ理論的・実践的知識をふまえて,講義と演習により,主に『日本十進分類法(NDC)新訂 10 版』を活用した図書館資料の分類記号付与についての技術を習得することを目指す。

1. NDCの構成及び使い方

2. 補助表の使い方

形式区分・地理区分・海洋区分

言語区分・言語共通部分・文学共通区分

3. 分類規程の適用

4. 各類別分類記号付与の実際

0類(総記)

1類(哲学・宗教)

2類(歴史・伝記・地理)

3類(社会科学)

4類(自然科学)

5類(技術)

6類(産業)

7類(芸術)

8類(言語)

9類(文学)

5. 基本件名標目表による件名作業

件名規程、件名付与の実際

6. 図書記号、別置記号の付与

成績評価は、出席態度、提出物、試験等により、総合的に行う。

【テキスト】

・志保田務・高鷲忠美編著

『情報資源組織法演習問題集』第3版 第一法規

2021

【参考文献】

・志保田務編著『情報資源組織論：よりよい情報アクセスを支える技とシステム』(講座・図書館情報学 10) 第2版
ミネルヴァ書房 2016

図書館施設論

1 単位(15 時間)

嶋田 学

【ねらいと到達目標】

ねらい：公共図書館を主として、図書館の配置計画、建築概要・施設・平面・サイン・書架計画などについて学ぶ

到達目標：地域における図書館サービス、図書館計画の考え方や図書館施設が地域の学びの拠点としてどのように造られているかを学ぶ。

【授業の概要】

公共図書館の立地、単館の建築計画から地域の図書館計画まで、また図書館施設内部の平面計画の考え方から書架、サイン等の製作まで、サービス拠点としての図書館施設の構成要素について述べる。

【授業計画】

第1回：授業ガイダンス図書館施設を学ぶ意義について

第2回：図書館施設の歴史

第3回：図書館の地域計画：図書館づくりのプロセス

第4回：図書館計画書の作成と建設設計

第5回：図書館のアクセシビリティに関する基礎・基本と関連法

第6回：図書館の部門構成と各部の計画(1)ゾーニングと動線計画、図書館家具、自動書庫、照明等

第7回：図書館の部門構成と各部の計画(2)サイン計画、ユニバーサルデザイン等

第8回：まとめ～図書館の維持・管理、防災計画等

【テキスト】なし

【参考文献】

中井孝幸・川島宏・柳瀬寛夫共著

『図書館施設論』《JLA 図書館情報学テキストシリーズ III 12》(日本図書館協会)

図書館制度・経営論

2 単位(30 時間)

平賀 研也

【講義概要・ねらいと到達目標】

本講の目的は「経営マインド」を持って図書館事業に臨む視点や方法を獲得することです。

技術や暮らしの加速度的な環境変化により、社会のパラダイムが大きく変わってきたこの四半世紀、図書館や目の前の地域コミュニティで目にする人と情報の関わり方は大きく変化しています。情報を探索し、理解し、編集し、発信することがわたしたちの暮らしの最も重要な要素である知識基盤社会へと移り変わってきました。

その変化は、わたしたち一人ひとりが単にマス/グローバルな情報を受け身で手にしたり、消費することにとどまらず、自ら能動的に情報を創造し、共有することができるようになる可能性を秘めてもいます。

そんな今、図書館に携わるわたしたちは、情報メディアの一つである本を収集、収蔵し手渡すという事業にとどまるのでしょうか？その事業の領域を変化させるのでしょうか？どんな事業の姿を目指すのでしょうか？その答えは、一つひとつの地域社会、ひとつひとつの図書館によって異なるはずです。

技術が革新され、人の暮らしが変わり、政策や制度が変わってきた様子をどう理解し、それにどう応えて図書館を経営するのか。事業経営の視点から振り返り、受講される皆さんそれぞれが、どんな「これからの図書館」を実現するのかを一緒に考えます。

本講の最終成果物は、受講者それぞれにとっての「これからの図書館」のミッションステートメントを書くことです(単位認定はこれにより行います)。

【講義計画】

1. イントロダクション(本講の目的と進め方)
2. グループディスカッション(問い)
3. 戦略的経営のプロセス
4. 環境分析 1(環境分析概説)
5. 環境分析 2(情報環境・行動様式など)
6. 環境分析 3(内部環境など)
7. 環境分析 4(法・制度・政策1:歴史)
8. 環境分析 5(法・制度・政策2:マクロ)
9. 環境分析 6(法・制度・政策3:ミクロ)
10. 戦略の策定(事業領域、核となる力…)
11. フォローアップ
12. ミッションマネジメント解説
13. ミッションステートメントを書く
14. グループディスカッション(共有/ふりかえり)
15. ふりかえりとまとめ

【テキスト】

使用しない

【テキスト】 使用しない

【参考文献】

- ・日本図書館協会編
『中小都市における公共図書館の運営』復刻版
日本図書館協会 1973
- ・日本図書館協会編
『市民の図書館』増補版 日本図書館協会 2002
- ・前川恒雄編著
『貸出し』(図書館員選書 1)日本図書館協会 1982
- ・竹内愨編訳
『図書館のめざすもの』日本図書館協会 1997
- ・清水正之著
『図書館を生きる 若い図書館員のために』
日本図書館協会 1995
- ・竹内愨著
『ひとの自立と図書館』(竹内愨講演集 1)
久山社 2004
- ・日本図書館協会障害者サービス委員会編
『障害者サービス』(図書館員選書 12)補訂版
日本図書館協会 2003
- ・日本図書館協会障害者サービス委員会・著作権委員会編
『障害者サービスと著作権法』(JLA 図書館実践シリーズ 26)
日本図書館協会 2014
- ・日本図書館協会多文化サービス研究委員会編
『多文化サービス入門』(JLA 図書館実践シリーズ 2)
日本図書館協会 2004
- ・図書館経営支援協議会編
『事例で読むビジネス情報の探し方がいっしょ 東京都立中央図書館の実践から』日本図書館協会 2005
- ・奈良岡功・山室真知子・酒井有紀子共著
『健康・医療情報を市民へ』(JMLA 叢書 3)
日本医学図書館協会 2004
- ・ローライブラリアン研究会編
『法情報の調べ方入門—法の森のみちしるべ』
(JLA 図書館実践シリーズ 28) 日本図書館協会 2015
- ・アントニア・ケヨン・バーバラ・カーニ著 公共図書館による医学情報サービス研究グループ 訳、野添篤毅監訳
『公共図書館員のための消費者健康情報提供ガイド』(JLA 図書館実践シリーズ 6)日本図書館協会 2007
- ・菅谷明子著
『未来をつくる図書館 —ニューヨークからの報告—』
(岩波新書新赤版 837)岩波書店 2003
- ・マーク・スミス著 根本彰監訳 戸田あきら[ほか]訳
『インターネット・ポリシー・ハンドブック 図書館で利用者へ提供
するとき考えるべきこと』日本図書館協会 2005
- ・鎌水三千男・中沢孝之・津森康之介著
『図書館があぶない! 運営編』LIU 2005
- ・鎌水三千男著
『図書館と法—図書館の諸問題への法的アプローチ』
(JLA 図書館実践シリーズ 12) 日本図書館協会 2009
- ・日本図書館協会図書館経営委員会危機・安全管理特別検討チーム編
『こんなときどうするの?—図書館での危機安全
管理マニュアルの手引き—』日本図書館協会 2005
- ・日本図書館協会著作権委員会編
『図書館サービスと著作権(改訂3版)』(図書館員選
書 10)日本図書館協会 2007
- ・名和小太郎・山本順一共著
『図書館と著作権』(インターネット時代の図書館情報学
叢書 1)日本図書館協会 2005